

自転車＋輪行で行く 北見・オホーツクの旅

自転車と公共交通で北見・オホーツクを回る。観光ルートとしてどんな魅力と課題があるか。実際に試してみた、簡単なお報告です。

☆輪行(りんこう)とは

自転車を折りたたみ又は解体して専用袋に収納することで、鉄道、バス等の公共交通に載せること。現在、JR旅客6社の鉄道路線は、無料で載せることができる。私鉄、バスは会社により無料有料分かれる。都市間バスなど自転車を載せられない路線もある。

1日目 2026.7.24

女満別空港～女満別駅～(石北本線・輪行)～留辺蘂駅～北見温泉 泊
自転車走行距離約 10 km

2日目 2026.7.25

北見温泉～留辺蘂駅～(石北本線・輪行)～安国駅～
旭峠(旧道)～栄～若佐～ルクシ峠旧道ゲート前～
栃木～若佐～栄～丸山峠～留辺蘂バス停～(北見バ
ス・輪行)～北見バスターミナル
※この後、総会参加。北見泊。
自転車走行距離 約 72 km

3日目 2026.7.26

北見(宿泊地)～最北のハス園～端野トンネル～ハ
ツカ御殿資料館～鉄山～常呂バスターミナル～(自転車道)～卯原内・網走市鉄
道記念館～女満別温泉～女満別空港
自転車走行距離 約 92 km



1 ルートについて

今回は①栃木集落を訪ねる②北見から常呂へ抜け海沿いを走る、この2つを主なターゲットとして、その途中に立ち寄りスポットを挟む形にしました。

2 輪行について

輪行は石北本線普通列車で女満別～留辺蘂～安国間で利用。H100 型気動車は、賛否ありますが自転車を載せるスペースが増えたことは評価できます。

また、北見バスは郊外線が輪行可。運賃+500円で載せることができます。今回は留辺蘂～北見間で利用しました。



3 道路について

自転車目線ですと①自動車の交通量が少ない②景色は雄大なほうがいい③適度な場所に休憩スポットがある、という道路が好まれると思われます。峠道は、あまり急峻でなければ、むしろ旅のアクセントになります。

今回の走行区間で絡むことが多かったのは、国道 333 号です。その交通量から、自転車にはやや走りにくい。しかし通らなければならないのが、悩ましいところです。また、ルクシ峠区間(新佐呂間トンネル)が自転車走行不可であることも、注意点です。



沿道の景色は、内陸部は見晴らしの良い場所は少ないものの、北海道らしい広々とした景色が続き、快適に感じました。そしてオホーツク海に出るというのも、ひとつの感動を覚える瞬間です。旧湧網線跡の自転車道も快適でしたが、落ち葉や小枝が路面に多く散らばっていたのが気になりました。

あと、走行ルートを組み立てるにあたり、この辺に休憩スポットがあったらいいなという場所として、若佐、仁頃、卯原内を挙げたいと思います。卯原内は喫茶店やセコマがありますが、若佐は「まちの駅」が休止。仁頃はハッカ御殿資料館内の飲用湧水が廃止。何とも残念でした。



4 温泉について

自転車乗りは体を動かしますので、汗を流す温泉にも注目しています。今回通らなかった場所も含め、北見・網走方面で自転車ルート上のポイントになるのは、端野、美幌(峠の湯)、女満別、上湧別、生田原、温根湯、北見の各温泉になると思います。



5 最後に 自転車について

輪行前提で考えるならば、専用袋にしまいやすく、早く組み立てられる折りたたみ自転車(20 インチ)を、私はお勧めします。

ロードバイクだと、走る距離は飛躍的に伸びますが、走ることが主目的となるくらいがあります。楽しく観光と、ある程度の距離を走ることを両立させると、20 インチ折りたたみになるかと。

